

熊本大学教育学部附属 教育実践総合センターニュース

No. 34 2010.3.29

ホームページ <http://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/~jissen/index.htm>



フレンドシップ事業シンポジウム（熊本大学工学部212号教室）

追悼：木村正治先生・・・・・・・・・・・・・・・・	センター長	吉田 道雄	2
教員免許状更新講習の1年目・・・・・・・・	センター准教授	中山 玄三	3
平成21年度実践センターニュース・・・・・・・・	センター准教授	高原 朗子	4
センターでの4年間・・・・・・・・・・・・・・・・	センター准教授	馬場 啓夫	5
教員免許状更新講習をふりかえって・・・・・・・・	センター特任教授	田中 耕治	6
センター業務を通して感じたこと・・・・・・・・	センター事務補佐	正木 明子	7
センター日誌・・・・・・・・・・・・・・・・			8

追悼：木村正治先生

センター長 吉田道雄

2009年12月25日、教育実践総合センター長の木村正治先生が急逝されました。その日の朝には、教員免許状更新講習の実施委員長として受講者の方々にご挨拶をされたばかりでした。その後、研究室で急に倒れられ、救急車で病院へ搬送されたのですが、午後には帰らぬ人となってしまいました。あまりに突然のことだったため、誰もがことばを失ってしまいました。あのお元気な声と豪快な笑い声がいまも聞こえてきます。

木村先生は2007年度にセンター長に選任され、持ち前のパワーでセンターのみならず、学部の発展のために全力投球をされました。本年度から本格的にスタートした教員免許状更新講習の実施委員長はセンター長が兼ねることになりました。そのため、木村先生は講習の実施に当たって多大なエネルギーを注がれたのです。実際のお仕事はすでに、2008年度の予備講習の設計からはじまっていた。まさに前例のない新しい試みでしたが、先生のご尽力により予備講習は成功

裏に終わりました。こうした流れの中で、2年の任期を勤められた後にセンター長として再任されたのが去年のことでした。それから1年も経たないうちに、このような事態を迎えようとは、誰よりも先生ご自身が予想されていなかったと思います。まことに残念なことではありますが、いまは先生のご冥福をお祈りしながら、私どものがそのご意志を何とか引き継いでいかねばなりません。

センターとしましては、教員免許状更新講習の実施に当たっても、それなりの役割を果たしていきたいと考えております。そのほか、「教育実習事後指導」「ユアフレンド事業」「フレンドシップ事業」「インターンシップ事業」など、これまでセンターが中心になって進めて参りました仕事も、さらに充実させていかねばなりません。

これからも皆さま方から強力にサポートしていただきますよう、お願いいたします。

教員免許状更新講習の1年目

センター准教授 中山 玄三

平成21（2009）年度は、昨年度の試行を受けて、教員免許状更新講習の本実施がメインであったように思います。私は、教育の最新事情についての共通必修科目

のうち、教育政策の動向に関する講習内容を担当しました。「新教育課程と今求められる学力」をテーマとして、過去30年間にわたるわが国の学校での教育観・

学力観について省察するとともに、学習指導要領の改訂に伴う最新の学力観について考え、今後の教育実践で取り組むべき課題を自覚する機会を提供しました。

7月・8月・11月・12月に合計5回の講習を担当し、のべ206名の先生にご参加いただきました。いずれの講習においても、教職年数や学校種にかかわらず、グループでの話し合いや発表で非常に積極的かつ熱心に取り組んでいただき、個々人のこれまでの教職経験に裏付けられた質的に高い内容となりました。講習終了後の受講者アンケートでは、講習の内容が「非常に適切だった」と回答した人が28%（59名）、「適切だった」と回答した人が68%（141名）で、また、講習の難易度が「適切だった」と回答した人が74%（154名）でした。

また、履修認定試験では、教育実践で

取り組むべき自分の課題を明確に記述した解答が多く見られ、5回の講習全体での平均点が88点、成績判定では「S」が39%（80名）、「A」が47%（96名）、「B」が15%（30名）でした。なお、受講者アンケートでは、試験の内容が「適切だった」と回答した人が61%（127名）、「少し難しかった」と回答した人が37%（76名）で、また、試験時間が「適切だった」と回答した人が79%（164名）でした。

これらの結果を踏まえ、来年度に向けて、講習内容・方法等のより一層の改善・充実を図っていきたいと思います。さらに、講習を通して私自身も学ぶことができた学校教育現場の現状や課題等を、大学での教職課程の授業内容に組み入れることで、理論と実践の統合をより一層図っていきたいと思います。

平成21年度実践センターニュース

センター准教授 高原 朗子

ユア・フレンド事業について

熊本市と連携して行っている不登校支援事業ユア・フレンド事業には、平成21年度は200名近い学生たちが本事業に登録し、活動しました。昨年度から活動を開始した3年次生（約45名）には教育臨床体験演習（単位化されたユア・フレンド事業の科目名）の初めての対象予定者として心理学教室の藤中隆久先生と共に指導にあたりました。

熊本市は近隣市町村との合併や政令指定都市に向けて人口もエリアも拡大して

いますが、その対応も含めて市内の不登校の子どもたちやそのご家族に対する支援の一方法として本事業がうまく機能していけるよう努力してゆきたいと思えます。

教育相談について

平成21年度の教育相談部門は、約200名（延べ人数）の方に対して相談を行いました。

その内容は一般的な子育ての問題、不登校やいじめをはじめとする学校不適応

の問題、発達障害の問題などです。年齢も就学前の幼児から、成人までと昨年に引き続き広がっております。

さらに昨年度に続いて今年も、附属校園、県や市の教育委員会といういわゆる狭義の教育の領域に加えて、医療領域や福祉領域のさまざまな機関からもケースの紹介や相談がありました。県内の福祉施設やニート引きこもりの対応をしている NPO 法人、さらには我が熊本大学の他学部や他大学からの相談もあります。

少人数の相談機関であり出来ることは限られていますが、今後も地道に活動を

続けていきたいと思っております。

心理劇ワークショップについて

21 年度も 9 月上旬に発達障害の青年達と学生や院生との交流を含めた心理劇のワークショップを行いました。2 日間にわたり約 30 名の参加があり、発達障害者の理解や啓蒙に向けた体験の場を提供できたと考えます。今回 4 回目になるこの事業の概要や事例の経過は拙著「軽度発達障害のための心理劇」（九州大学出版会 2009 年）他で報告しております。

センターでの 4 年間

センター 准教授 馬場 啓夫

実務家教員として教育学部附属教育実践総合センター所属となった平成 18 年度は、センターの主要業務の中で教育研究シンポジウムを担当。「第 12 回研究シンポジウム」において、「教育実習事後指導をとおして見えてくるもの」と題して話題を提供し、パネル討論等をまとめ報告書を作成した。

2 年目の平成 19 年度は、教育実践研究を担当。「熊本大学教育実践研究」投稿規定は平成 7 年 6 月に改訂されていたが申し合わせ事項のようなものであった。センター教員で「熊本大学教育学部紀要投稿規定」に準じて条項を設け内容を検討し、企画委員会に回り、教授会で審議・承認を受けて平成 19 年 11 月 28 日から施行することになった（教育実践研究第 25 号に掲載）。この年、学際

科目をセンター教員が担当することになり、私は「経営者に学ぶ人間」・「人間理解に生かす雑学」・「人間理解と品格」をテーマにして 3 コマを実施した。また、フレンドシップ事業の副担当として係わり、今年度までの 3 年間、月 1 回午後 6 時から始まる振り返り会に参加し、学生たちの生き生きとした活動の話を聴く機会を得た。更に、センター教員を代表して、教育学部教員の親睦と慶弔を行う「清交会」の幹事（3 人）となった。例年は 5 月の歓迎会・3 月の送別会の実施でありましたが、かつて行われていた忘年会をやってほしいという声が多数あり、この年から復活。クイズやゲームなどを取り入れ笑いで年（歳）を吹っ飛ばした。

3・4 年目は、センター教員として教

育実習委員会・広報委員会を担当。教育実習委員会（学部・附属学校園）では、教育実習の手引き書「教育実習ガイドブック」が、検討を重ねて本学部独自のものが作成された。学生にとって4カ年に亘る教育実習の目的と意義の理解、教育実習へ向けた自覚を高めることが期待できるものである。副委員長（3人）の一人として、関係機関との会合にも参加した。また、広報委員会では、教育学部の入試方法の変更に伴う説明と受験者増を目的に、委員の一人として県内の高等学校を訪問。更に、教員免許状更新講習では、センター教員は必修科目の一部を担

当することになり、昨年の試行を踏まえて今年本格実施。私は、天草・玉名のサテライトと本学部で「教育改革の動向」・「学校の危機管理」の2つを延べ5コマ担当した。

この4年間の中で、私にとって最も楽しく充実した時間は、学生・院生との授業、教員採用試験へ向けての全体指導や個別指導でありました。ここでなければ体験できないことでした。このような貴重な経験が出来ましたのも多くの先生方に支えられたからであります。心からお礼を申し上げます。

教員免許状更新講習をふりかえって

センター特任教授 田中耕治

私は、平成21年3月に、熊本県公立中学校を定年により退職しました。そして、6月1日付けで、熊本大学教育学部で勤務することになりました。今年度から本格実施となった、教員免許状更新講習の担当ということでした。

初年度を終わった今、その取り組みをふりかえってみたいと思います。

この教員免許状更新制のねらいは、「教員として必要な資質能力が保持されるよう最新の知識技能を身につけ、自信と誇りを持って教壇に立つことである」とされていました。

最初のうちは、受講する側にも教える側にも不安やとまどいがあったようですが、次第にやり方もわかり、スムーズな流れになってきたように思います。双方

に、「受講するならきちんと学んで帰る」、「やるからには一生懸命に教える」といった雰囲気もあったように思います。講習が終わった後のアンケートでは、本講習における「内容、方法」、「最新の知識・情報」、「運営のやりかた」、「講習全体」といった項目の評価で、「よい」、「だいたいよい」と答えた受講者が、90%程度と高い評価を示しました。また、「こういう機会にしか接することができない大学の先生方の、最新の知識情報、そして技能を学ぶことができた。質の高さと内容の深さを感じた。」とか、「学校に帰ってからの自分の教育実践に生かせる内容がたくさんあった。」とかいった声も聞かれました。総じて言えば、「この制度そのものには、疑問点や改善点を感じ

るが、この講習自体は役にたつものが多かった」というものであったろうと思います。

一方、これまで接点があまり多くなかった現職教員と大学の間、この免許更新講習を通して、新しい連携・交流があったのも大きな成果だと感じます。大学の先生方にとっても、「現場の教員が何をがんばり、何を求めているのか」を知

ることは有意義なことだと思います。

政権が変わり、この講習制度そのものの存続についても不透明なところもあります。しかし、「県教育委員会などが実施する研修とこの更新講習を組み合わせで実施することも考えられてよいのでは」という声もありました。始まったばかりのこの研修制度がいい方向に向かうことを願っています。

センター業務を通して感じたこと

事務補佐 正木 明子

今年度4月より事務補佐として勤務させて頂いております正木です。初めての大学勤務で孤軍奮闘する日々ですが、慣れないながらも少しずつ仕事をまかせて頂けるようになり、とても充実しております。1年間のセンター業務を通して感じたことを書かせて頂きます。

まず、先生方や職員の方と接する中で「報告・連絡・相談」の大切さを学びました。情報を共有し仕事の見通しを立てるために必要なことは言うまでもありませんが、それ以上にコミュニケーションの副産物に気付いたからです。ちょっとした説明や話題を+αするだけで、別の情報や手がかりをつかめたりすることがあります。手探りの状態からスタートしたからこそ、学ぶことができた貴重な経験です。

また、センターの業務の一環として、学生との関わりも大事にしたいと考えています。先日の「フレンドシップ事業シンポジウム」では、学生達による分科会

に参加させてもらい、その活動内容の一端を知ることができました。「しかることの難しさ」や「やる気のない子への対応」または「仲間との協力とは何か？」など議題は様々でしたが、それぞれが熱い思いを持って子ども達と向き合おうとしている様子が伺え、とても心強く感じました。来年度は、この学生達の活動をもっと陰から支えていくことができればと考えております。

さらに、社会連携や地域貢献として、センターの果たす役割が大きくなってきています。公開講座や教育相談や講師依頼など、先生方は学内外の活動に積極的に取り組まれ、多忙を極めておられるからです。今後も外部からの問い合わせや学外機関との連携などが、ますます増えていくことが考えられます。熊本大学の顔としての窓口業務を遂行するにあたり、細心の注意を払いながら進めていかなければならないと思っております。

最後に、設立30年を経過したセンタ

一には、改善が必要な箇所が多数あります。老朽化に伴う改修工事や整理作業を早期に行い、先生方や訪問者の方々に気

持ちよく過ごして頂けるよう努めて参りたいと思っております。

センター日誌

平成20年度

3月24日 第67回運営委員会

7月11日 免許更新講習（中山・高原）

12日まで

8月18日 免許更新講習（中山・高原）

平成21年度

4月10日 ユア・フレンド事業説明会
（教育学部）

8月19日 免許更新講習（吉田・馬場）

20日まで

4月22日 免許更新制度会議
（教育学部）

8月22日 免許更新講習（馬場）

8月25日 免許更新講習（馬場）

5月9日 ユア・フレンド事業研修会
（教育学部）

8月26日 免許更新講習
（吉田・中山・馬場）27日まで

5月12日 ユア・フレンド事業研修会
補講（教育学部）

9月4日 心理劇ワークショップ
（5日まで）

5月12日 市教委連携推進委員会

9月13日 免許更新講習（高原）

5月13日 免許更新制度会議
（教育学部）

9月16日 公開講座リーダーシップ
トレーニング東京会場（17日まで）

5月19日 免許更新制度会議
（教育学部）

9月18日 第75回国立大学教育実践研究
関連センター協議会

5月26日 第68回運営委員会

10月10日 平成21年度第1回

6月14日 免許更新講習（高原）

ユア・フレンド事業意見交換会

6月20日 4年次教育実習事後指導
（21日まで）

10月11日 免許更新講習（吉田）

6月27日 4年次教育実習事後指導
（28日まで）

11月6日 公開講座リーダーシップ・

トレーニング熊本会場フォロー研修

7月4日 4年次教育実習事後指導
補講（実践センター）

11月12日 平成21年度第1回インターン
シップ意見交換会

7月6日 公開講座リーダーシップ・
トレーニング熊本会場（7日まで）

11月14日 免許更新講習
（吉田・中山・高原）15日まで

12月2日 第69回運営委員会

12月12日	免許更新講習 (吉田・中山・馬場) 13日まで	1月16日	平成21年度第2回 ユア・フレンド意見交換会
12月17日	公開講座リーダーシップ・ トレーニング東京会場フォロー研修	2月19日	第76回国立大学教育実践研究 関連センター協議会
平成22年		3月1日	平成21年度フレンドシップ事業 公開シンポジウム
1月22日	平成21年度日本教育大学協会 九州地区第27回実践研究会	3月29日	第70回運営委員会

編集後記

センターニュース第34号をお届けします。冒頭にも書いたが、木村正治センター長が昨年末に急逝された。在任期間の引き継ぎとして専任の吉田がセンター長の役割を果たすことになった。今年度末で馬場啓夫先生がご退職になる。実務家教員として4年間、センター専任としてだけでなく、学生に対する教員採用試験のサポートなど、幅広くご活動いただいた。心から感謝申し上げます。▼ また、教員免許状更新講習の実施に当たって、特任教授として田中耕治先生にご就任いただいた。センター所属ということで、講習以外にも事後指導などでも学生をご指導いただいている。さらに、事務補佐員として5年間お世話になった山下直美さんがご退職になった。その後任として正木明子さんが採用された。正木さんは根っからの明るい性格でじつにエネルギッシュである。事務局から防災上、廊下に置いたロッカーを整理するよう勧告された。それに対して、われわれ教員にもしっかりと働きかけて、あっという間に廊下をスッキリさせた。その手際の良さに、ご担当者からもお褒めのことばをいただいた。じつに頼もしい存在である。▼

センターは教育工学センターとして1979年に設置されてすでに30年を超えた。さすがに建物は老朽化が目立ちはじめた。しかし、働くスタッフの方は、少なくとも気持ちだけは(とくに吉田は)しっかり前向きでいる。これからも地道に、しかし確実に前進していくつもりである。(文責: 吉田道雄)

熊本大学教育学部附属教育実践センターニュース

(題字 森山秀吉元教育学部教授)

No. 34 2010.3.26

〒860-0081 熊本市京町本丁5-12 Tel 096-325-3282 Fax 096-352-3468